

和歌山県立医科大学付属病院 腫瘍センター 化学療法部門

Wakayama Medical University Hospital Oncology Center, Department of Chemotherapy

腫瘍センター化学療法部門 卒後臨床研修カリキュラム（選択）
（1ヶ月単位、延長可 1名/月）

研修内容

増加の一途をたどるがん患者の外来がん薬物療法を経験し、乳癌、肺癌、消化器癌、造血器腫瘍などを中心に外来で施行する標準的なレジメンについて理解し、併用薬剤の種類、投与量の算出方法、投与間隔、投与禁忌、投与可能条件、減量方法、補助薬の種類と使用方法などについて理解する。又、がん薬物療法をうけられる患者の**サポーターケア(有害事象のマネジメントと治療)**、医療倫理の理解、チーム医療の実践を経験する。

指導教官

化学療法部門長
／病院教授

上田 弘樹

日本がん治療認定医機構がん治療認定医、教育医
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、指導医
日本内科学会総合内科専門医、指導医
日本肝臓学会専門医、指導医
日本消化器病学会専門医、指導医

化学療法部門
／非常勤医師

下野 千草

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医、指導医
日本医学放射線学会放射線科専門医
PET核医学認定医、マンモグラフィ読影認定医

兼任医師
（第三内科）

奥田 有香
村上恵理子 他

和歌山県立医科大学付属病院 腫瘍センター化学療法部門

Wakayama Medical University Hospital Oncology Center, Department of Chemotherapy

行動目標

がん薬物療法を実施可能な患者を的確に診断でき、適切な治療計画を理解することができる

がん患者の病状把握や治療法選択のために必要な問診、診察ができる

抗がん剤や分子標的薬の作用メカニズム、副作用のプロフィールが理解できる

がん薬物療法に必要なCT、PET-CTなどの画像検査、腫瘍マーカー、免疫組織化学検査、遺伝子検査を理解することができる

薬剤投与のための正しいルート確保（末梢血管、CV・動注ポートなど）ができる

抗がん剤や分子標的薬剤の有害事象の判定方法と適切な支持療法について理解し、対応することができる

オンコロジックエマージェンシーに対応できる

抗がん剤の効果判定の方法について理解できる

看護師、薬剤師などの多職種から構成されるチーム医療の必要性を理解し、一員として働くことができる

がん薬物療法を行う際のインフォームドコンセントなどがん診療に関連する医療倫理的な問題への対応が理解できる